



【日商簿記検定3級】仕訳問題 100 選

次の各取引について仕訳を示しなさい。なお、商品売買は三分法、消費税は税抜方式で処理し、消費税が登場しない問題では考慮しない。問題文に別の指示がある場合は、その指示に従うこと。

※各問の【★】は難易度を表す（★：簡単、★★：普通、★★★：難しい）。

■ 現金・預金（問1～問9）

1. 【★】保有する株式について、配当金領収証¥30,000 を受け取った。
2. 【★★】現金の実際有高を調べたところ¥48,000 であり、帳簿残高¥52,000 と一致しなかったため、帳簿残高を実際有高に合わせた。
3. 【★】先に計上した現金過不足（借方残高）¥4,000 のうち、¥3,000 は通信費の支払いの記帳漏れであることが判明した。
4. 【★★】当社は A 銀行と B 銀行に普通預金口座を持ち、口座ごとに勘定を設けて管理している。A 銀行の普通預金口座から B 銀行の普通預金口座へ¥200,000 を振り替えた。
5. 【★★】仕入先に対する買掛金¥150,000 を当座預金口座から振り込んで支払った。なお、振込手数料¥440 も同口座から引き落とされた。
6. 【★★】当社は取引銀行と借越限度額¥500,000 の当座借越契約を結んでいる。当座預金の残高が¥80,000 のときに、買掛金¥130,000 を当座預金口座から支払った。なお、当社は期中は当座預金勘定のみで処理し、決算時に借越額を振り替えている。
7. 【★】普通預金口座から¥500,000 を引き出し、同じ銀行の定期預金に預け入れた。
8. 【★】定額資金前渡法（インプレスト・システム）を採用することになり、普通預金口座から引き出した現金¥30,000 を用度係に前渡しした。
9. 【★★】用度係から今週の支払報告を受けた。内訳は、通信費¥3,200、旅費交通費¥5,600、消耗品費¥2,000 である。ただちに同額を普通預金口座から引き出して用度係に補給した。



■ 商品売買（問 10～問 22）

10. 【★】商品¥200,000 を仕入れ、代金は掛けとした。なお、引取運賃¥3,000（当社負担）は現金で支払った。
11. 【★】掛けで仕入れた商品のうち¥12,000 が品違いであったため返品し、買掛金から差し引いた。
12. 【★】商品¥180,000 を掛けで販売した。なお、発送費¥2,500（当社負担）を現金で支払った。
13. 【★★】商品¥100,000 を販売し、送料¥1,500 を加えた合計額を掛けとした。また、送料は配送業者に現金で支払った。
14. 【★】掛けで販売した商品のうち¥8,000 が返品され、売掛金から差し引いた。
15. 【★】商品¥300,000 を注文し、手付金として¥60,000 を普通預金口座から支払った。
16. 【★★】上記の商品¥300,000 を受け取り、手付金¥60,000 を差し引いた残額は掛けとした。
17. 【★】得意先から商品の注文を受け、内金¥40,000 を現金で受け取った。
18. 【★★】上記の得意先に商品¥200,000 を引き渡し、内金¥40,000 を差し引いた残額は掛けとした。
19. 【★★】商品¥120,000 をクレジット払いの条件で顧客に販売した。信販会社への手数料は販売代金の 3%であり、販売時に計上する。
20. 【★】商品¥50,000 を販売し、代金として自治体が発行した商品券¥30,000 と現金¥20,000 を受け取った。
21. 【★★】当社は商品売買を販売のつど売上原価勘定に振り替える方法で記帳している。商品¥150,000 を仕入れ、代金は掛けとした。[2027 年度～]
22. 【★★】当社は商品売買を販売のつど売上原価勘定に振り替える方法で記帳している。商品（原価¥60,000）を¥90,000 で販売し、代金は掛けとした。[2027 年度～]



■ 債権・債務（問 23～問 37）

23. 【★】得意先 A 社に対する売掛金¥250,000 について、A 社が電子記録債務の発生記録を請求し、当社は取引銀行から発生記録の通知を受けた。
24. 【★】仕入先 B 社に対する買掛金¥180,000 の支払いのため、取引銀行を通じて電子記録債務の発生記録を請求し、発生記録が行われた。
25. 【★】電子記録債権¥250,000 の支払期日が到来し、当座預金口座に入金された。
26. 【★】取引先 C 社に¥500,000 を貸し付け、普通預金口座から振り込んだ。
27. 【★】C 社に対する貸付金¥500,000 の返済を受け、利息¥7,500 とともに普通預金口座に入金された。
28. 【★】当社の取締役に¥300,000 を現金で貸し付けた。
29. 【★★】銀行から¥1,000,000 を借り入れ、利息¥20,000 を差し引かれた残額が普通預金口座に入金された。
30. 【★★】不用になった段ボールなどの梱包材を¥5,000 で売却し、代金は月末に受け取ることにした。
31. 【★】事務用のパソコン¥240,000 を購入し、代金は月末に支払うことにした。
32. 【★】従業員の出張にあたり、旅費の概算額¥50,000 を現金で渡した。
33. 【★】出張から帰った従業員から旅費の精算を受け、旅費交通費は¥46,000 であったため、残金¥4,000 を現金で受け取った。
34. 【★】出張中の従業員から当座預金口座に¥120,000 の振込みがあったが、その内容は不明である。
35. 【★】上記の振込額¥120,000 は、得意先に対する売掛金の回収であることが判明した。
36. 【★★】給料¥400,000 の支払いにあたり、所得税の源泉徴収額¥30,000、住民税¥18,000、社会保険料の従業員負担分¥40,000 を差し引いた残額を普通預金口座から振り込んだ。



37. 【★★】店舗用の建物を賃借する契約を結び、敷金¥300,000、不動産会社への仲介手数料¥100,000、1か月分の家賃¥100,000を普通預金口座から支払った。

■ 固定資産（問38～問47）

38. 【★】備品¥500,000を購入し、据付費¥20,000とあわせた代金は月末に支払うことにした。
39. 【★】土地¥3,000,000を購入し、仲介手数料¥90,000と登記料¥30,000とあわせて普通預金口座から支払った。
40. 【★★】建物の改修工事を行い、代金¥800,000を普通預金口座から支払った。このうち¥500,000は建物の耐用年数を延長させる支出（資本的支出）であり、残額は修繕のための支出である。
41. 【★】決算にあたり、建物（取得原価¥3,000,000、耐用年数30年、残存価額ゼロ）について、定額法により減価償却を行う。記帳は間接法による。
42. 【★★】決算（3月31日）にあたり、×6年10月1日に取得して使用を始めた備品（取得原価¥600,000、耐用年数5年、残存価額ゼロ）について、定額法により月割で減価償却を行う。記帳は間接法による。
43. 【★★】決算にあたり、備品（取得原価¥800,000、決算整理前の減価償却累計額¥320,000）について、定率法（償却率25%）により減価償却を行う。記帳は間接法による。[2027年度～]
44. 【★★】期首に、備品（取得原価¥400,000、減価償却累計額¥240,000）を¥150,000で売却し、代金は月末に受け取ることにした。記帳は間接法による。
45. 【★★★】×6年9月30日に、備品（取得原価¥600,000、期首の減価償却累計額¥360,000、定額法、耐用年数5年、残存価額ゼロ、間接法）を¥200,000で売却し、代金は普通預金口座に入金された。当期分の減価償却費は月割で計上する。会計期間は4月1日～3月31日である。
46. 【★★★】期首に、備品（取得原価¥300,000、減価償却累計額¥270,000）を除却した。この備品の処分価値は¥10,000と見積もられ、貯蔵品として処理する。記帳は間接法による。[2027年度～]
47. 【★★★】期首に、車両運搬具（取得原価¥1,000,000、減価償却累計額¥900,000）を廃棄し、廃棄のための費用¥15,000を現金で支払った。記帳は間接法による。[2027年度～]



■ 貸倒れ (問 48～問 53)

48. 【★】 当期に商品を掛けて販売した得意先が倒産し、同社に対する売掛金¥40,000 が回収できなくなった。
49. 【★★】 前期に商品を掛けて販売した得意先が倒産し、同社に対する売掛金¥30,000 が回収できなくなった。貸倒引当金の残高は¥50,000 である。
50. 【★★】 前期に商品を掛けて販売した得意先が倒産し、同社に対する売掛金¥80,000 が回収できなくなった。貸倒引当金の残高は¥50,000 である。
51. 【★★】 前期に貸倒れとして処理した売掛金¥20,000 のうち、¥8,000 を現金で回収した。
52. 【★★】 決算にあたり、売掛金の期末残高¥800,000 と電子記録債権の期末残高¥200,000 の合計に対して2%の貸倒引当金を、差額補充法により設定する。貸倒引当金の残高は¥12,000 である。
53. 【★★】 決算にあたり、売掛金の期末残高¥500,000 に対して 2%の貸倒引当金を、差額補充法により設定する。貸倒引当金の残高は¥14,000 である。



■ 税金・費用・収益（問 54～問 63）

- 54. 【★】商品¥300,000（税抜）を仕入れ、消費税 10%とあわせた代金は掛けとした。消費税は税抜方式で処理する。
- 55. 【★】商品¥500,000（税抜）を販売し、消費税 10%とあわせた代金が普通預金口座に入金された。
- 56. 【★】前期の決算で計上した未払消費税¥120,000 を、普通預金口座から納付した。
- 57. 【★】法人税、住民税及び事業税の中間申告を行い、¥150,000 を普通預金口座から納付した。
- 58. 【★】確定申告を行い、前期の決算で計上した未払法人税等¥210,000 を普通預金口座から納付した。
- 59. 【★】固定資産税の第 1 期分¥20,000 を普通預金口座から納付した。
- 60. 【★】収入印紙¥10,000 と郵便切手¥4,000 を現金で購入した。
- 61. 【★★】従業員の給料から差し引いていた社会保険料¥40,000 と、会社負担分¥40,000 をあわせて普通預金口座から納付した。
- 62. 【★】駐車場として借りている土地の今月分の地代¥30,000 を、普通預金口座から支払った。
- 63. 【★】所有する建物の一部を貸しており、今月分の家賃¥90,000 が普通預金口座に入金された。



■ 株式会社の純資産（問 64～問 68）

- 64. 【★】会社の設立にあたり、株式 100 株を 1 株あたり¥50,000 で発行し、全額の払込みを受けて普通預金とした。
- 65. 【★】増資にあたり、新たに株式 40 株を 1 株あたり¥60,000 で発行し、全額の払込みを受けて当座預金とした。
- 66. 【★★】株主総会で、繰越利益剰余金から株主配当金¥200,000 を支払い、利益準備金¥20,000 を積み立てることが決議された。
- 67. 【★】上記の株主配当金¥200,000 を、普通預金口座から支払った。
- 68. 【★★】決算の結果、当期純損失¥120,000 となったため、損益勘定から繰越利益剰余金勘定に振り替えた。



■ 決算整理・決算振替（問 69～問 81）

69. 【★★】決算にあたり、売上原価を「仕入」の行で計算する。期首商品棚卸高は¥150,000、期末商品棚卸高は¥180,000 である。
70. 【★★】決算（3月31日）にあたり、×6年12月1日に1年分を支払った保険料¥24,000のうち、前払分を月割で計上する。
71. 【★★★】決算（3月31日）にあたり、×6年11月1日に借り入れた¥600,000（年利率3%、利息は1年後の返済時に一括で支払う）について、当期分の利息を月割で計上する。
72. 【★★】決算（3月31日）にあたり、×7年1月1日に6か月分を受け取った家賃¥180,000のうち、前受分を月割で計上する。
73. 【★★】決算（3月31日）にあたり、×6年12月1日に貸し付けた¥400,000（年利率3%、利息は返済時に一括で受け取る）について、当期分の利息を月割で計上する。
74. 【★】期首にあたり、前期末に計上した前払保険料¥16,000について再振替仕訳を行う。
75. 【★★】決算にあたり、当座預金勘定が¥50,000の貸方残高（当座借越）となっていたため、当座借越勘定に振り替える。
76. 【★】決算にあたり、現金過不足勘定の貸方残高¥3,000について、原因が判明しなかったため適切に処理する。
77. 【★】決算にあたり、収入印紙¥6,000と郵便切手¥2,000が未使用であったため、貯蔵品に振り替える。購入時には租税公課と通信費で処理している。
78. 【★】決算にあたり、消費税の処理を行う。仮払消費税の残高は¥240,000、仮受消費税の残高は¥380,000である。
79. 【★★】決算にあたり、税引前当期純利益¥800,000の30%を法人税、住民税及び事業税として計上する。なお、中間納付額¥100,000を仮払法人税等で処理している。
80. 【★★★】決算にあたり、次の各勘定の残高を損益勘定に振り替える（1）（2）の仕訳と、当期純利益を繰越利益剰余金勘定に振り替える（3）の仕訳を示しなさい。売上¥2,000,000、受取利息¥10,000、仕入¥1,300,000、給料¥400,000（ほかの収益・費用はない）。

簿記3級の無料テキスト&問題集の入手方法はこちら→



81. 【★★★】得意先から売掛金¥50,000 を現金で回収した際、誤って（借）現金 50,000（貸）売上 50,000 と記帳していたことが判明したので、訂正する。



■ 伝票の起票（問 82～問 85）

82. 【★】得意先から売掛金¥60,000 を現金で回収した。起票する伝票の種類と、記入する勘定科目・金額を答えなさい。
83. 【★】事務用の消耗品¥3,000 を購入し、代金は現金で支払った。起票する伝票の種類と、記入する勘定科目・金額を答えなさい。
84. 【★★】商品¥100,000 を販売し、代金のうち¥30,000 は現金で受け取り、残額は掛けとした。取引を分けて起票する方法で、起票する伝票と記入内容を答えなさい。
85. 【★★★】前問と同じ取引を、いったん全額を掛けで販売したとみなして起票する方法で、起票する伝票と記入内容を答えなさい。



■ 本試験形式 総仕上げ（目安 15～20 分）（問 86～問 100）

86. 【★★】次の納品書兼請求書を受け取り、商品を受け取った。代金は月末に支払う。消費税は税抜方式で処理する。
【納品書兼請求書】品物 A 20 個×@¥3,000=¥60,000／品物 B 10 個×@¥2,000=¥20,000／小計 ¥80,000／消費税（10%）¥8,000／合計¥88,000
87. 【★】事務用品を購入し、次の領収書を受け取った。代金は現金で支払済みである。消費税は税抜方式で処理する。
【領収書】コピー用紙 ¥5,000／消費税（10%）¥500／合計¥5,500
88. 【★★】商品を販売し、次の請求書（控え）を発行した。代金は月末に受け取る。消費税は税抜方式で処理する。
【請求書（控え）】商品 X 30 個×@¥4,000=¥120,000／消費税（10%）¥12,000／合計¥132,000
89. 【★】商品売買の仲介を行い、仲介手数料¥18,000 が普通預金口座に振り込まれた。
90. 【★】電子記録債務¥160,000 の支払期日が到来し、当座預金口座から引き落とされた。
91. 【★】信販会社から、クレジット売掛金¥97,000 が普通預金口座に入金された（手数料は販売時に計上済み）。
92. 【★】従業員が個人で負担すべき保険料¥12,000 を、会社が現金で立て替えて支払った。
93. 【★★】給料¥250,000 の支払いにあたり、所得税の源泉徴収額¥15,000 と、上記の従業員立替金¥12,000 を差し引いた残額を普通預金口座から振り込んだ。
94. 【★】所得税の源泉徴収額¥15,000 を、現金で納付した。
95. 【★★★】商品¥400,000（税抜）を仕入れ、消費税 10%とあわせた代金のうち、注文時に支払った手付金¥50,000 を差し引いた残額は掛けとした。消費税は税抜方式で処理する。
96. 【★】借入金¥500,000 の返済期日となり、利息¥6,000 とともに普通預金口座から返済した。
97. 【★★】先に計上した現金過不足（貸方残高）¥5,000 のうち、¥4,000 は受取手数料の記帳漏れであることが判明した。



98. 【★】営業用の車両¥1,800,000 を購入し、登録手数料¥50,000 とあわせて普通預金口座から支払った。
99. 【★】交通系 IC カードに入金した際に仮払金として処理していた¥10,000 のうち、¥3,200 を電車代として使用した。
100. 【★★】株主総会で、繰越利益剰余金から株主配当金¥300,000 を支払い、利益準備金¥30,000 を積み立てることが決議された。